

1 「本質的な問い」による単元構想について

- 本単元の本質的な問いに対して、生徒は与えられた情報を基に自分の考えを整理して考えを深め、既習の表現を使いながら表現することができた。その要因としては、「ALTの先生が来日予定の家族・友達に呉を案内できるように、呉のおススメの旅行プランを紹介する」という場面を設定したことが効果的であったと考える。また、教科等の見方・考え方に加え、これまで総合的な学習の時間で呉について知り考えたことなど他教科の学習とも結び付けながら、相手意識を持って考察させたことも効果に繋がったと考えられる。

2 単元で育成を目指す資質・能力について

【知識・技能】

- 初めは、自分の意見を自分の知っている表現を使って簡単な日本語に置き換えることに課題がある生徒が見られた。しかし、教師が既習の表現を確認させるタイミングや、困ったときの支援に繋がる板書などにより、学力的に心配な生徒も自分なりに書いたり、表現を見直したりすることができていた。
- 発表後、話す速さやスライドなどの補助資料の活用など「話す」「伝える」ことに対して、上手いかなかったと思っている生徒がいた。国語など他教科と連携しながら人前で話す機会を増やし、話す技能を付けていきたい。

【思考力・判断力・表現力】

単元後の振り返りより、次の質問項目に対する肯定的評価はこのようになった。

自分の思いを相手に伝えることができるようなプランをつくったり、発表をしたりすることができましたか。	11/13（人）
この取組を通して、あなたは、以前より英語で自分の考えや意見を相手に伝えることができましたか。	9/13（人）

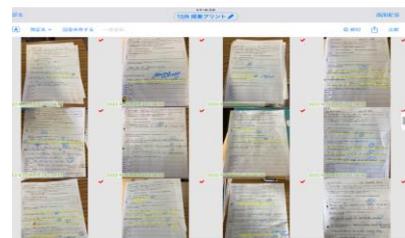
- 記述部分に、「相手に比較級や最上級を使ってわかりやすく詳しく伝えることができた。」「授業を重ねていくごとに、さまざまな表現を使いながら文を作れた。」「自分が伝えたいことを今まで習ったこと（think や because など）を使って英文に直すことができた。そして、自分のことだけでなく、班の人がこういうことを伝えたいということから、こう表したら良いんじゃないかなど教えることができた。」とあり、自分の思いや情報を整理し既習の表現を使いながら、どうすれば聞き手に上手く伝わるかを考えてメモを改善したり、発表したりすることができていた。

【主体的に学習に取り組む態度】

- 単元後の振り返りより、「旅行プランを考える際に、苦労したことがあった。/たくさんあった。」という回答も多かった。しかし、「どのような方法で解決したか」という質問に対して「班の人に聞いた」「先生に聞いた」だけでなく「自分で調べた」という意見もあり、既習の内容・表現を基に、自力解決に向けて努力したことも実感できている様子だった。

3 「デジタル機器」の活用

- それぞれ時間の授業プリント・発表に向けたメモなどの写真、振り返りの提出で、ロイロノートの提出箱を活用した。そのことにより、生徒一人ひとりがどこまで理解しているか・何に困っているかなどを把握したり、個別に助言したりして、机間指導の際の声掛けや個に応じた指導に繋げることができた。



《授業プリントに書き込みをして返信》

別紙様式